



無事故をねがって! 交通安全住民集會が開かれました

交通安全部では交通安全協会古牧支部と共催で、年間を通して毎月第一水曜日の朝7時～8時に西尾張部交差点において「長野市交通安全マナーアップデー」と併せて交通安全街頭啓発活動を行っています。その一環として、秋の全国交通安全運動期間に併せ、「交通安全住民集會」が次の3ヶ所で行われました。

①9月1日(水)西尾張部交差点会場(中村・北条・五分一・西尾張部の皆さん) ②9月8日(水)東和田交差点会場(荒屋・平林・西和田・東和田の皆さん) ③9月22日(水)上高田北交差点会場(川端・上高田・南高田・南長池の皆さん)です。のぼり旗を持って歩道内に立ち、自動車、自転車、歩行者の皆さんに注意喚起を行いました。たくさんの住民と役員の皆さん、中央警察署の警察官、長野市役所の担当者の方々のご協力をいただき



ました。

また、それぞれの会場では、三陽中学校の生活委員の生徒さん多数が登校時間前まで参加していただきました。

このような啓発活動を続けていくことにより、交通安全意識が向上し、交通事故防止・交通死亡事故ゼロの推進ができればと思います。ありがとうございました。(交通安全部)

賞状等は各区独自に受賞者へ贈呈

防火・防犯・交通安全ポスター表彰式は中止に

8月21日(土)古牧各12地区より選ばれた153作品のポスター審査が行われ、各カテゴリーの18作品の入賞者が決まりました。

表彰式を9月5日(日)に行う予定でしたが、コロナウイルス感染拡大防止のため、急きょ中止になってしまいました。

第40回という節目のポスター事業で審査会まではコロナ対策をして何とか実施してきま

したが、非常に残念な結果になってしまいました。

表彰式を予定していた9月5日、各地区の代表者に賞状・副賞等が渡され、各地区独自で受賞者に贈呈されることになりました。

(防犯部)

前方後円墳～不思議と謎に満ちた美しい南向塚古墳～

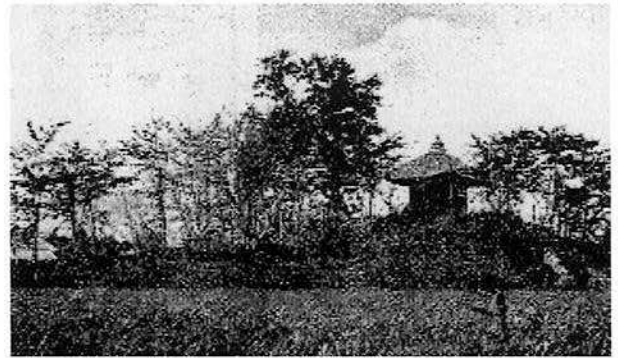
古牧郷土史研究会 関川 光彦

南向塚古墳は高田字南向沖(上高田)にあり長野市の史跡に指定されています。築造年代や墓主など多くが特定できていません。旧犀川・旧裾花川河道等による複合氾濫原による扇状地の扇端の段差の直近に位置しています。北の方向の直近には条里制区割りが明確な水田の米田(今は畑で市の生産緑地に指定)があります。西方には古墳時代前期からの住宅跡などが発掘されえています。また八幡川による水田地帯であったことが分かります。特に南向塚は長野盆地の広い平坦な場所にただ一つ築造されている県下随一で極めて珍しく他に類を見ないと言われていることです。また多くの呼称があります。例えば王塚・直塚・ながめ塚・長尾塚・首塚・姫塚・瓢塚・なんご塚・一夜塚・南向塔などの伝承があります。特になんご塚の名前は江戸宝暦年間の色付きで描いた古絵図があります(水路との関係も含め)。これも県下の他の地域には無く貴重なものとされています。昔から伝承されてきた王塚の墓主には古事記にいち行だけ第八代孝元天皇の第二皇子の少名日子建猪心がありますが、調



明治期に画かれた絵

べると墓主との関係は全く根拠がありません。また四道将軍の大彦命も伝承にありますが、全く根拠はありません。上記の多くは、川中島合戦



昭和4年国から上高田区へ払い下げた時代のもの

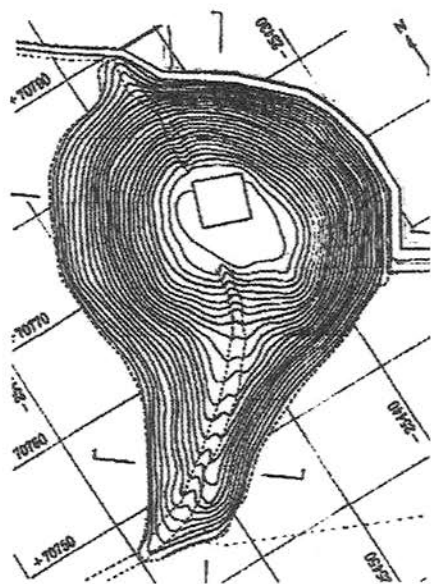
に深く関係しているものもあると思いますが、確かな証拠は見あたりません。例えば首塚は川中島合戦での多くの戦死者の首を葬ったとか、消失前の堂へは武将が戦勝祈願をしたとかいろいろあります。古牧の牧は馬城牧村で馬との関りが考えられ、南向塚は格別馬と因縁があったことが分かります。築造年代については様々な観点から6世紀ごろ、古墳時代中期末から古墳後期始めだろうと推定されていますが、科学的な精密な調査はなされていません。「稲作-太陽(神)-裾花川-犀川-千曲川-南向塚」には切れない深い関係があるのでしょうか。墓主は全く不明ですが、平坦地に大きな盛り土を作り墳丘とするには相当の権力者の存在が欠かせません。ヤマト政権との係りはどうか、豪族例えばカナザシシ、オサダシ、その他地域の有力者などとはどうであったか。そして築造にあたって労働力としての住民との関わりなどはどうであったのか、築造にあたり材料と土木技術など全てが不明です。すべて謎に満ちていて興味のある処です。時代は下り、新しく平成期に南向塚の正確な測量がなされえました。これによると形態について多くのことが分かってきました。全長が46m、主軸は真北から北に45°振られています。また主軸は旧犀川・旧裾花川河道等と墳

丘前方部の延長がこの旧河道による段差と直交しています。後円部は直径33m。高さ4.8m。頭頂部には切頭円錐形の場所があります。前方部には明確な段築は見られません。この前方部は長さ13m、幅8mで後円部より緩やかに前方へ傾斜しています。前方部は形態が乱れ改変されていると思



2019年4月 南東側からのもの

われます。後円部・前方部共に左右非対称で特に東側には歪みが見られます。形態からみて帆立貝古墳、造出付け古墳の可能性も出てきます。いずれにしても南向塚が何故この地にこのような形態で築造されているのか名前と共に謎です。呼称としては前方後円墳と考えておいた方が妥当であろうと思います。墳丘全体では東側の半分が急斜面でくびれており、崩落が著しく原形を留めていないと思われる。後世のある時代に改変したことも否定はできません。西側には安定した穏やかな形が見られます。昭和期に入り地区の皆さんが崩落防止の為に改修しています。前方部には特に謎の部分が多く見られますので、この



平成10年の測量

解明が南向塚全体が如何なるものであるかをみるカギとして重要な一つにもなろうと言われてい

ます。かつて頭頂部に建物が存在していましたが合戦のため消失し、後の元禄年間に観音堂が再度建てられました。その折に墳丘の一部が改変さ

れたとのことも否定できません。出土品としては次の3件の話があります。明治43年に後円部北東隅の急斜面から瑪瑙の勾玉が一つ見いだされています。また県市町村誌には「往々兵器の類得」とか水内郡誌には「右刀など…」の表現もあります。過去において盗掘があったことの可能性も否定できません。明治の時の古老に聞くとその頃にはタヌキ・キツネ・テン・イタチ・モモンガ・爬虫類などが多く生息していたとのことです。先の戦争中は少年団によるキモダメシの怖いところ、昼は遊び場。今も地区の祭りの場であり、憩いの場・古きに思いと心を寄せる恵みの場として愛されています。古牧地域にとっても不滅の文化財であり、心のふるさとの一つでもあるでしょう。現在は地区の南向会はじめ区民が出て定期的に草取りなどをして整備・保護に努めています。南向塚全体では西側や南側からの眺めは優しく美しいし、北側や東側には急な斜面が見られ多様な風景を見せています。地域の人たちによって南向音頭も既に創作されています。現在は上高田南向塚公園の一つの画である歴史広場に囲まれています。

全戦没者追悼と 非戦の誓い

9月27日(月)に南高田区の西光寺にて追悼法要がとり行われました。



娑婆鉛筆

残された人生無理せず楽しく健康でいられますように!

以前からフラダンス・ヨガ等、体を動かす機会を作っておりましたが、年を取るにつれ、体全体の硬さ、特に肩こりや手指の痛み痺れがひどくなり、悩んでおりました。そんな時、昨年から古牧地区子育て支援部で一緒のTさんにお誘いいただいて始めたのが、川端での「自強術(じきょうじゅつ)」です。



自強術とは、日本で100年前(大正時代)に誕生した“自分で自分に療法を施す”ことを目的とする健康体操です。治療術から生み出された体操で、呼吸法と31の動作を順番に行います。この体操をすることで、全身の調和がとれ、身体各部の関節の柔軟性が高まり、呼吸器と循環器に適度の刺激を与えら

れる等、色々な効果が得られると言われていいます。運動不足の解消、腰痛防止にも役立つそうです。

自分の体の硬さはひどいものでした。指導して下さる先生・お仲間の方々から「無理しないでゆっくりやっていって良いのよ!」と優しく指導を受けながら体操をしています。先生からは体操の他にも、時にはジョークを交え、為になる

お話しもして下さるので、毎回通うのが楽しみです。最近では、以前に比べるとだいぶ身体も柔らかくなり、痛み痺れも和らげられました。

自分の身体は自分で治す!を目指し、残された人生無理せず楽しく健康でいられるよう心がけたいと思います。(増尾 美芳)

10月から11月までの主な行事実施日のお知らせ → 回覧等でお知らせします。



古牧地区の世帯数と人口

令和3年9月1日現在

11,717世帯

(男 13,153人

26,666人

女 13,513人)

- 発行所 古牧地区住民自治協議会
(電話259-8359・FAX219-1057)
(E-mail:komaki@vivid.ocn.ne.jp)
- 発行者 児嶋 孝
- 編集 ぷらネットこまき編集委員会
- 印刷 SR



HP
ご覧ください